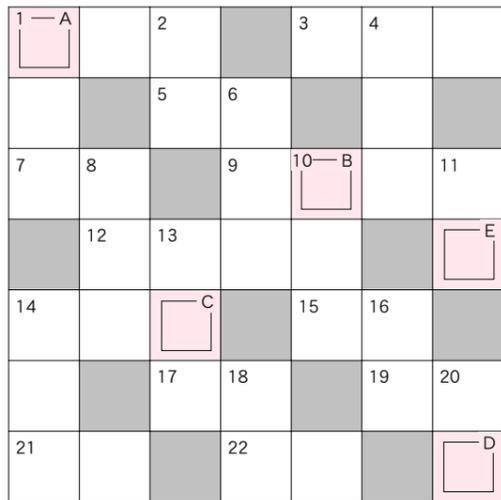


人権クロスワードに挑戦しよう!

【廿日市市人権啓発推進協議会連合会】

クロスワードパズルに挑戦しながら、人権について考えてみませんか?
A～Eを順に並べて言葉を作ってください。



【答え】

ヒント 童謡詩人金子みすゞの代表作
「朝焼け小焼けだ○○○○○だ」

A	B	C	D	E
---	---	---	---	---

応募方法

ハガキに答え(A～Eでできた1つの言葉)と、①住所、②名前、③年齢を記入し、次へ。正解者の中から、抽選でクオカード(500円分)を送付します。

締め切り 12月6日(土) (必着)

当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。正解は、広報はつかいち1月号に掲載。

〒738-8501 (住所不要)

廿日市市役所 人権・男女共同推進課内 廿日市市人権啓発推進協議会連合会事務局まで

※個人情報、記念品の発送のみに使用

ヨコのかぎ

1. 人KENまもる君、あゆみちゃん
2. の作者。やなせ○○○。
3. 憲法で保障されている。○○○の人権。
4. ○○からぼたもち。
5. 宮島にいる動物。
6. 問題を○○○○する。
7. 日本料理の料理人。
8. ○○○ものに福あり。
9. 東京とパリの○○は8時間。
10. おおもと。基本。
11. ○○は金なり。
12. 手前○○。脳○○。
13. 罪と○○。

タテのかぎ

1. 器物などを洗うもの。束子と書く。
2. 「上」の反対。
3. ○○○の顔も三度まで。
4. ○○○はずれはやめよう。
5. 繭(まゆ)を作る。そして絹糸に。
6. 家に帰る道。
7. その領域に詳しい人。情報○○。
8. 自力の反対。
9. 新幹線○○○号は速い。
10. いなか。ふる○○はなつかしい。
11. うどんと○○。
12. 役立つことを行う。貢献。業界に○○する。

廿日市市人権作品展

第39回廿日市市人権作品入選作品を展示します。ぜひ、ご来場ください。

- 12月3日(木)～5日(土) 8時30分～17時15分 廿日市市役所 市民ロビー
- 12月6日(土) 12時30分～16時 人権フェスタ会場 (さくらびあ)
- 12月10日(水)～14日(日) 9時～21時30分 さいき文化センターロビー
- 12月17日(水)～21日(日) 9時～21時30分 大野市民センターロビー



人権イメージキャラクター
「人KENあゆみちゃん・人KENまもる君」

人権フェスタ2014

芸術活動と子育てを
両立させている菊池桃子さん。
12月6日(土)、
さくらびあで講演!



きくち ももこ
菊池 桃子さん

1968年東京都生まれ。1984年、映画・歌手デビュー。2014年4月、デビュー30周年記念のベストアルバム「青春ラブレター～30th Celebration Best～」を発売。幅広い芸術活動と子育てを両立しながら、戸板女子短期大学の客員教授としてキャリア教育を行うほか、NPO法人キャリア権推進ネットワークに理事として参加するなど多方面で活躍中。一男一女の母。

12月4日(木)～12月10日(水)は、 人権週間です

人権週間を中心に
さまざまな取り組みを行っています。
一緒に人権について考えてみませんか。
問合せ 人権・男女共同推進課 ☎9136

とき 12月6日(土)

開場 12時30分

第1部 13時

●廿日市市人権作品表彰式

(市内の小・中学生、高校生、一般から応募された標語、作文、詩、ポスターの入選作品の表彰)

●全国中学生人権作文コンテスト表彰式

第2部 14時～15時30分 (予定)

●人権講演会

演題 「笑顔が生まれる生き方」

講師 菊池桃子さん

場所 さくらびあ

大ホール

※入場無料。手話通訳・要約筆記、託児(要予約)あり

※駐車場は台数に限りがありますので、来場は公共交通機関を利用してください

この欄は、市民と市職員で構成する「広報人権問題シリーズ編集委員会」が編集しています



問合せ
人権・男女
共同推進課
☎9136

障がい者の人権 パラリンピックを通して

2020年のオリンピック・パラリンピックの開催地が東京に決定しました。オリンピック・パラリンピック代表選手のプレゼンテーションは話題になり、「トウキョウ」と発表された瞬間の映像は、当時、何度もテレビで目にしたことと思います。

パラリンピックとは

オリンピック終了後、同じ場所で開催される障がい者スポーツの大会がパラリンピックです。もともと、パラリンピックは戦争負傷者のリハビリテーションを目的として、イギリスで開催されていたスポーツ大会で、当時の参加者は両下肢にまひのある車いすの人でした。その後、この大会は少しずつ国際化していき、「Paralympic (パラプレジアル下半身まひ)」と「Olympic (オリンピック)」を合わせ「パラリンピック」という愛称がつけられました。

そして、1985年にはこの愛称が公式名称として定められ、参加者の障がいの種類もさまざまになってきたことから、「パラリンピック」とは、「Parallel (パラレル)」と「Olympic (オリンピック)」を組み合わせ「もうひとつのオリンピック」という意味付けがされました。かつてはリハビリテーションとして始まったも

のでしたが、現在では競技性の高いスポーツの大会となっています。

障がい者とスポーツ

2012年に開催されたロンドンパラリンピックでは、日本代表選手が計16個のメダルを獲得しています。このような日本人選手の活躍がメディアでも取り上げられるようになってきており、パラリンピックや障がい者スポーツへの関心が少しずつ高くなってきています。

ただ、残念なことに実際に障がいのある人が「スポーツをしたい」と思った時に気軽に参加できる場合は、障がいのない人に比べると多くはありません。障がいがある人がスポーツをする機会、余暇を楽しむ機会をつくろうと少しずつ取り組みを始めています。

廿日市市では、障がいのある人からの「気軽にスポーツを楽しみたい」という声を受けて、障がいのある人がスポーツをする機会、余暇を楽しむ機会をつくろうと少しずつ取り組みを始めています。

障がいのある人も一緒に スポーツを楽しもう!

(東京ユニバーサルスポーツ宣言)

これは2013年に開催された国民体育大会と全国障害者スポーツ大会の際に掲げられたコ

ンセプトです。
スポーツは、年齢や性別、障がいのある・なしに関わらず誰もが平等に楽しめるものです。パラリンピックをきっかけに、障がい者スポーツへの興味をもつことで、障がいのある人もない人も、みんなが一緒になってスポーツが楽しめる機会が増えていくといいですね。